# 「フチォコール」ノ**生化學的研究** 第二報 「フチォコール」ノ健康家兎尿成分ニ 及ボス影響ニ就テ

大阪帝國大學醫學部全村內科並微生物病研究所

(竹尾結核研究部 上任 今村教授)

外 山 重 高

本論文要旨ハ第13回日本結核病學會總會ニ於テ發表セリ。

### 緒 言

襲ニ余ハ結核菌體内一色素「フチォコール」 ラ合成シ、ソノ "健康家兔血糖並ニ血清沃度酸値ニ及ボス影響ラ檢査シ、本物質ガソノ血糖ラ下降セシメ血清沃度酸値ラ上昇セシムル作用ラ有スルラ確證セリ。該實驗中余ハ「フチオコール」注射後第1日尿が黑褐色ニ變ジ多量ノ蛋白ラ含有スルノミナラズ著シク還元反應ヲ呈スルヲ認メ、殊ニソノ 還元反應が糖尿ニ於ケルモノト多少趣ヲ異ニスルヲ感知シ、本反應物質ノ檢索ニ努メ、他方尿諸成分ニ現ハル、影響ヲ檢査シ、「フチオコール」注射ニ依リテ 惹起セラル、體內變化ノ一半ヲ窺知セント欲セリ。

生體内 - 移入セラレタル「フェノール」、「クレゾール」、「キノン」等が硫酸或ハ「グルクロン」酸ト抱合シ尿中二排泄セラル、ハ周知ノ事項ニシテ<sup>(2)(3)(4)</sup>「ナフタリン」- アリテハ其尿ハ赤褐色ニ變ジ Dihydronaphthol, Naphthalinmercaptonsäure 等ノ外硫酸又ハ「グルクロン」酸抱合物トシテ尿中二證明サル、ハ旣二報告セラレタル所ナリ。

「フチォコール」ハ <sup>(5)</sup> 2 methyl- 3 hydrooxy-1.4 naphthoquinon ナルガ故ニ、 コレガ 生體内ニ 於テ如何ナル運命ニ終ルヤハ又興味ヲ覺ユル所ナリ。

### 實驗方法

實驗動物ハ健康家鬼ヲ選ビ、毎日早朝一定時間ニ採尿シ實驗ニ供セリ、實驗ハ注射前後ニ於テ數日間尿量、比重、PH、蛋白反應、還元反應、窒素量、「クレアチニン」量、「カルシウム」量、無機硫酸量、「エーテル」硫酸量、「グルクロン」酸反應等ニ就キ實施セリ。 PH ハ東洋水素「イオン」 濃度試験紙ヲ用ヒ、蛋白反應ハ「ズルフォサリチール」酸及ビ煮沸試験 ヲ 併用シ、 定量ニハ(6) 土屋氏法ヲ用ヒタリ。 還元反應ハ 專ラ

Nylander 氏法ニョリテ檢シ、窒素量ハのKjeldahl 氏法ヲ用ヒ、殊ニ蛋白含有尿ニ對シテハ之ヲ 醋酸々性トシ加温除蛋白シ、「ズルフ・サリチール」酸反應ヲ 呈セザルニ 至リテ定量ヲ逐行スルコト、セリ。「クレアチーン」量ハ <sup>(8)</sup> Folin 氏比色法ニ依リ、「カルシウム」量ハ <sup>(9)</sup>Kramer und Tisdal 氏法ニ依リ、無機及ビ「エーテル」硫酸量ハ <sup>(10)</sup>秤量法ニ 依リ、「グルクロン」酸ハ <sup>(11)</sup> Tollens 氏法ニ據レリ。

### 實驗成績

實驗成績ヲ表示スレバ第1表乃至第6表ノ如シ。

第1米	宴觅	1995 g	<b>↑</b>	「フチオコール」	20mg il:41

B	<b>尿量</b> (cc)	比重	Рн	蛋白 反應	還元 反應	密素量 (g)	「クレアチ ニン」置 (g)	「カルシ ウム」社 (mg)	無 機 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	「エーテル」 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	Tollens 反應
3	131	1014	8.6	_	T -	1.1203	0.0576	48.3	0.1022	0.0063	+
2	135	1014	8.9	_	_	1.2804	0.0783	50.2	0.1019	0.0093	+
1	149	1014	8.6	_	_	1.2669	0.0916	53.6	0.1103	. 0.0081	+
0	150	1012	8.6	_	_	1.1999	0.0870	57.1	0.0847	0.0085	+
1	68	1020	7.2	++	##	0.7688	0.0544	21.2	0.0723	0.0185	+
2	76	1020	8.4	4 %	_	0.9306	0.0631	8.4	0.0993	0.0064	+
3	64	1025	8.4	+		1.1549	0.0691	5.8	0.1124	0.0178	+

## 第2表 家兎 1210g 含 「フチオコール」20mg 注射

日	<b>尿量</b> (cc)	比 重	Рн	蛋白反應	還元 反應	窒素量 (g)	「クレアチ ニン」は (g)	「カルシ ウム」量 (mg)	無 機 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	「エーテル」 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>2</sub> g)
3	162	1006	8.0	_		0.7444	0.0405	27.7	0.0714	0.0561
2	204	1008	8.1		_	1.0059	0.0637	15.2	0.0835	0.0489
1	188	1008	7.8	_	_	0.9948	0.0395	16.3	0.0979	0.0766
0	203	1007	7.8		_	1.2902	0.0568	15.2	0.0699	0.0531
1	63	1032	6.3	##	##	0.8379	0.0599	2.7	0.1399	0.0132
2	120	1014	7.0	4 %	_	1.7470	0.0504	8.2	0.1220	0.0113
3	178	1008	7.6	+	_	1.3706	0.0481	11.1	0.0917	0.0075
4	148	1007	7.2	+		1.2266	0.0400	3.8	0.2638	0.0155

### 第3表 家兎 1340g 含 「フチオコール」20mg 注射

B	<b>尿量</b> (cc)	比 重	Рн	蛋白反應	還元 反應	「クレアチ ニン」量 (g)	「カルシウ ム」量 (mg)	無機 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	「エーテル」 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)
3	192	1011	7.7	_	_	0.0710	29.2	0.1351	0.0186
2	188	1010	8.0	_	_	0.0752	16.9	0.1173	0.0233
1	172	· 1010	8.1	_	_	0.0739	22.3	0.1152	0.0155
0	208	1008	7.8	_	_	0.0624	33.5	0.1158	0.0117
1	39	1034	5.6	##	##	0.0538	10.3	0.1280,	0.0115
2	152	1010	7.2	6 %	±	0.0608	17.5	0.1022	0.0165
3	170	1008	7.4	++	_	0.0561	15.5	0.1097	0.0229
4	178	1008	7.6	+	_	0.0480	41.7	0.0921	0.0150
5	174	1010	7.2	+		0.0678	7.2	0.1242	0.0245

### 第4表 家兎 1625g 含 「フチオコール」30mg 注射

Н	尿量 (cc)	比重	Рн	蛋白反應	還元 反應	窒素量 (g)	「クレアチ ニン」量 (g)	カルシ ウムj量 (mg)	無 機 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	「エーテル」 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	Tollens 反應
2	124	1011	8.6	_	_	0.9294	0.0670	35.8	0.0568	0.0117	+
1	136	1014	8.4			1.2309	0.0775	37.8	0.0631	0.0083	+
0	140	1014	8.4	_		1.2267	0.0770	31.6	0.0753	0.0103	+
1	96	1012	8.2	##	##	0.5407	0.0292	14.5	0.0645	0.0141	+
2	120	1013	8.3	6 %	_	0.6624	0.0468	20.6	0.0519	0.0106	+
: 3	200	1012	8.8	. ++	_	0.8574	0.0432	6.4	0.0643	0.0092	+

B	<b>尿量</b> (cc)	比 重	Рн	蛋白 反應	選元 反應	第 <b>景 量</b> (g)	「クレアチ ニン」散 (g)	「カルシ ウム」量 (mg)	無 機 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	「エーテル」 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)
2	181	1007	8.4			1.0777	0.0452	27.0	0.0662	0.0310
1	200	1009	8.2	_	_	1.2469	0.0500	29.4	0.0542	0.0210
0	185	1009	8.0	_	_	1.0885	0.0481	25.8	0.0723	0.0321
1	72	1022	5.4	8 %	##	0,8392	0.0461	5.1	0.0911	0.0357
2	84	1020	5.4	++	+	1.0685	0.0378	6.1	0.1475	0.0180
3	83	1016	5.4	++	_	1.1968	0.0274	3.7	0.1651	0.0150
4	148	1011	7.6	+	_		0.0444	6.4	0.1251	0.0137

第5表 家児 1270g ま 「フチオコール」30mg 注射

第6表 家兎 1630g ま 「フチオコール」30mg 注射

Ħ	尿量 (cc)	比重	Рн	蛋白反應	還元 反應	窒素量 (g)	「クレアチ ニン」量 (g)	「カルシ ウム」量 (mg)	無 機 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	ェーテル」 硫酸量 (H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> g)	Tollens 反應
3	200	1008	8.2	T -		1.6151	0.0860	68.1	0.0521	0.0176	+
2	175	1008	7.8	_		1.0243	0.0452	67.2	0.0471	0.0121	+
1	98	1014	7.6	-	-	1.2494	0.0510	56.9	0.0778	0.0109	+
0	156	1013	8.2	-	_	1.5168	0.0821	70.5	0.0521	0.0151	+
1	104	1018	7.2	++	##	1.1962	0.0593	6.7	0.1001	0.0105	+
2	90	1010	7.8	++	_	0.7268	0.0405	11.9	0.0295	0.0163	+
3	120	1010	7.0	3 %	_	0.6502	0.0648	4.6	0.0537	0.0227	+
4	98	1020	6.0	++	_	0.6572	0.0804	5.7	0.0922	0.0422	+
5	124	1010	8.2	+	_		0.0558	4.3	0.0677	0.0655	+

「フチォコール」注射後第1日尿ハ黑褐色ニ變ジ特異ノ臭氣ラ發シ、酸性ニ傾キ、尿量減少シ、比重增大之。蛋白反應、還元反應共ニ甚ダ著明ニシテ、蛋白反應ニアリテハ蛋白含有量8%ラ指示セルモノアリ。第2日尿ニアリテハソノ色彩殆ンド常尿ニ近ヅキ還元反應ラ呈スルモノ少シ。第3日尿ョリハ尿量、比重、PH等殆ンド常尿ニ復歸セルモノ多シ。唯蛋白反應ノミ5日ヲ經ルモ陽性ナルモノアリ。

尿中窒素量ハ「フチォコール」注射後稍を減少スルノ傾向ラ示セドモ僅微ニシテ特記スルラ要セズ。「クレアチニン」量ニアリテモ亦著變アルラ認メズ。

尿中「カルシウム」排泄量ニ於テハ「フチォコール」注射後著明ノ減少ヲ示シ、2分ノ1乃至10分ノ1量ニ減ゼリ。

無機硫酸量ハ第1例、第4例ヲ除キ、「エーテル」硫酸量ハ第2例ヲ除キ共ニ稍ヽ増加スルノ 感ヲ抱かシムルモ 時間的及 ビ 量的關係一定セ ズ。「グルクロン」酸量 - 關シテハ變化 ラ 認メ ズ。

尚尿中蛋白反應ノ著明ナルコトヨリ腎臓ノ障碍 セラレタルチ 豫想シ「フチオコール」注射後24 時間ニシテ之ヲ病理組織學的ニ檢査シタルニ腎 臓パ稍、腫大シ、間質性腎炎ニシテ稀ニ絲毬體 ノ侵サル、ヲモ認メ得タリ。

次ニ余ハ「フチオコール」注射後第1日尿ノ特異ナル還元反應ニ注目シ、ソノ本體ラ檢索中偶を「フチオコール」ノ結晶ラ常尿中ニ投ジソノ銀烈ナル還元反應ラ呈スルコトラ験知セショリ、「フチオコール」注射後ノ尿中ー 現ハル、還元物質ハ恐ラク體内ニ於テ分解サル、コトナク、尿中ニ排泄セラレタル「フチオコール」ニ依ルベキラ祭シ、「フチオコール」ノ性質ラ利用シ、注射後第1日尿ラ酸性ニ於テ「エーテル」ニテ震量シ、酸性水溶液ニ於テ黄色ラ呈シ「エーテル」ニ移行シ、「エーテル」ョリ滷性水溶液ニ移行シテ紅色ラ呈スルモノラ得、コレラ結晶セシメタルニ黄

色針狀結晶ニシテ「フチオコール」ト異ナラザル ラ觀タリ。然シテコノモノヲ囘收セシ後ノ尿ー 於テハ最早還元反應ヲ呈セズ。

余ハ又「フチオコール」注射後第1日尿乃至第4 日尿ニシテ還元反應ヲ呈スルモノハ勿論、全クコレヲ呈セザルモノヲモ酸性トシ、「エーテル」ニテ振盪分離シ「フチオコール」ノ混入ヲ避ケ、コレヲ滷性「バリ」ト」水ニテ 處置 シ 濾液ヲ鹽酸性トシ煮沸分解セシメタルモノヲ「エーテル」ニテ設盟シ、酸性水溶液ニ 於テ黃色ヲ 呈シ「エーテル」ニ移行シ、「エーテル」ョリ滷性水溶液ニ

#### 結 論

ロ理ノ當然ナラン。

健康家兎ニ「フチオコール」ヲ注射スルニ、第1 日尿ハ黑褐色ニ變ジ、尿量著シク減少シ、酸性ニ傾キ、蛋白反應、還元反應共ニ著明ナリ。尿中「カルシウム」量ハ減少シ、無機及ビ「エーテル」硫酸量ハ増加ノ傾向ヲ示シ、窒素量、「クレアチニン」量、「グルクロン」酸量等ニ向ヒテハ 注目スペキ 變化 テ 招來セズ、 注射 セラレタル「フチオコール」ハ一部ハソノ儘尿中ニ排泄セラル、モ、一部ハ恐ラク硫酸抱合物トシテ排泄セラルベシ。

移行シテ紅色ヲ呈スルモノヲ得タリ。コレ恐ラ

ク硫酸抱合物トシテ 排泄セラレタル「フチオコ

ール」ナルベシ。 尙「フチオコール」 が硫酸抱合

物トシテ排泄セラル、時ハ「エーテル」硫酸量ノ

増加ヲ認メ得ベキナリ、然レドモ上記余ノ實施

シタル試験ニ 於テハ「フチオコール」20 瓱、30

瓱ヲ使用シタルニ 過ギザルヲ 以テ、「フチオコ

ール」ノ分子量ヨリコレニ 結合スペキ 硫酸量ラ

推考スルモ、ソノ生理的動搖範圍内ニ留リテ、

「エーテル」硫酸量!増加ヲ檢出シ得ザリシハ寧

稿ヲ終ルニ臨ミ、今村教授、西垣博士ノ御 指導御校関ヲ深謝ス。

### 文 獻

1) 外山, 結核第十四卷. 第三號. 2) E. Fischer, Berlin. klin. Woch. (18 Jg. Nr. 48, 710(1881). 19 Jg. Nr. 8, 113. Nr. 9, 135(1882). 3) Fürbringer, Berlin. klin. Woch. 19 Jg. Nr. 10, 145(1882). 4) M. J. Rossbach, Berlin. klin. Woch. (21 Jg. Nr. 42, 665. Nr. 46, 729(1884). 22 Jg. Nr. 14, 213 (1885). 5) J. Anderson and M. S. Newman,

J. biol. chem. 103, 197(1933). 6) 土屋, 東京醫事新誌. 第 1653 號. 333 頁. 7) Kjeldahl, Z. analyt. Chem. 22, 366(1883). 8) O. Folin, Z. f. physiol. Chem. 41, 223(1904). 9) B. Kramer and F. F. Tisdall, J. biol. Chem. 47, 475(1921). 10) Folin 氏法, 高畑生物化學分析. 397 頁(1927). 11) C. Tollens, Z. f. physiol. Chem. 61, 95(1909).